移轉を前にして

ひつこし

倉橋惣三

舊いところから新らしいところへ、といふよりも、なつかしみから希望への間をゆくひつこしの車には、荷物のほかにさまゞの思ひの積まれることである。急がせもし、ふりかへりもし、ゆられゝてゆく移轉かなといつた心持ちに充たされる。

住みなれた此のお茶の水。砂場の砂の一握りにも、ぎつと握りしめてみたい思ひに、五十七年の長い歳月と分れる今日。

新らしく築き建てられた大塚の園舍。歩み入る一歩々々をも、强く踏みしめてみたい思ひに、望み多き充實に迎へらるゝ今日。

遠くも流れて來た河水が、廣く遙けき沖波の打ち寄する渚に迎へられて、合ひのひと時、何とはなしに渦卷き立ち騷ぐに似たる今日の心。